

大和郡山 防災ニュース 30. 6月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

6月18日市内に震度5弱の地震発生！ あなたはどこにいて、どう対処されましたか？

6月18日午前7時58分、大阪府北部震源で最大震度6弱の地震が発生しました。郡山市内では、震度5弱を記録、これは郡山に平成9年に震度計設置以来最大のもので、阪神淡路大震災の際に県内で記録した震度4を上回るものでした。市内では多くのエレベーターが停止して閉じ込めに遭った方もおられました。電車が止まってしまい、多くの乗客が長い時間閉じ込めに遭いました。踏切が上がらなくなり大渋滞が発生しました。瓦の落下や窓ガラスの破損の情報も入ってきます。震度5を越えたため小中学校、幼稚園は休校園になりました。

今回は、本市で大きな被害が出ることは免れましたが、郡山においても地震は決して無縁ではありませんでした。

※今回の地震での「自助」は？

地震発生時、皆さんはどのような対応を取られたでしょうか？

実は、私も市職員の中でも、揺れの間、机の下などでシェイクアウトしていた者もいれば、出入口付近にいていち早く屋外に避難した者、突然のことに呆然としていた者などと、その対応が分かれました。対応しなかった、できなかったという方はおられませんか？災害における「自助」「共助」「公助」のうち、6～7割が自らの判断や対応で命を守る「自助」で救われているのです。

※地域の絆「共助」は？

自主防災組織等などによる対応は取られたでしょうか？

平日の午前8時といえば、既に社会全体が動き始めている時間で役員さんも既に出勤や外出してしまっただ方も多くて、それどころではなかったかもしれませぬ。また、大きな被害も無く揺れも収まったので対応の必要が無いと判断した防災会も多かったと思います。

これは、市内のある自主防災組織の役員さんから聞いた話なのですが、今回の地震後に域内の避難行動要支援者30名余りに1時間かけて安否確認の電話連絡をされたそうです。その際、電話口の高齢者など要支援者の方々は「怖くて震えが止まらなかった」とか「心細かった」等と口々に訴えた後、「ありがとう、電話の声だけでも安心できました」との言葉が返ってきたと

のことでした。災害時における地域での支援体制とは必ずしも救援や救命だけで無く、ちょっとした会話の中のいたわりの言葉による心のケアも含まれてるのだと感じました。

※「公助」市役所、消防署などでは？

市役所の庁舎では、水管から水漏れなどの被害はあったものの、建物自体は無事でした。また市内の各施設への連絡で周囲の状況を聴取しましたが、特に大きな問題も発生していないようでした。なお、震度5以上の地震が発生した場合の地域防災計画における取り決めにより、午前8時35分災害対策本部を設置しました。今回は避難所は特に必要ないと判断、開設しませんでした。避難希望者の問い合わせには近隣の公民館に逃げてもらうようお答えしました。

消防署では、エレベーターの閉じ込め者や停車中の電車内の急病人レスキューや搬送に当たりました。

※今後への課題は？

まずは「自助」、「災害時に人は逃げないもの」のようです。でも「自分だけは大丈夫、自分だけ死なない」では決してありません。市では、ホームページに「災害時の避難行動マニュアル」を掲載し、災害種別毎の対応を記載していますのでこの機会にご一読ください。また、7月9日午前10時30分には「ナラシェイクアウト」が開催されます。当日、登録制の市民安全メールも配信しますので、ぜひご参加ください。(防災ニュース5月号参照)

次に「共助」いざという時にどうして良いかわからない人にとって、大きな声を出して率先して行動を起こしてくださる人は心強いものです。また、率先行動者に蛍光色のウインドブレーカーなど目立つ服を着てもらおうとわかりやすい目印になります。また、先程ご紹介したように避難行動要支援者への声かけなど、被災者に安心と落ち着きをもたらす動きも有効だと思います。

最後に「公助」今回、市にたくさんの問い合わせがあったわけではなく一見平穏に見えた部分にも、市民の「不安」や「心細さ」があったことを忘れず、広報や避難所開設のあり方についても考えてまいりたいと思います。

大和郡山防災ニュースは、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース	検索
------------	----

↗

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください！

大和郡山市消防団へようこそ	検索
---------------	----

↗

大和郡山 防災ニュース 30.6月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

自主防災組織を結成して、地域の防災の輪をつくきましょう！

災害における「自助」「共助」「公助」、これら3つの助けはそれぞれどのくらいの割合で人命を救ってくれるのでしょうか？

阪神淡路大震災における調査報告では、「自助」67%「共助」31%「公助」2%という数字が出ています。「共助」＝地域の助け合う力で3割もの人命が救われたこととなります。淡路島のある地区では、98%もの、生き埋め者、閉じ込め者が、震災発生後、半日で地域住民の力で救われた事例も報告されています。つまり、地域の防災力によって、助かる命が違ってくるということです。

※郡山における自主防災組織の現状は？

地域の防災力の要となるのは、自主防災組織です。現在市内318自治会のうち自主防災組織を結成してるのは、223自治会、結成率は、70.1%となっています。ところで、以前、奈良県内各市町村の自主防災組織組織率の調査結果が公表され、郡山の組織率は、57.6%（平成29年4月時点）で大和高田と並んで、県内で最も低い組織率であるという新聞報道がありました。（平成30年5月時点では62.6%）組織率とは、自主防災組織を結成している自治会に加入している世帯数を市内全世帯数で割って算出するもので、自治会に加入していない世帯は入れられないため、結成率より低くなっています。

さらに、名目上自主防災組織は結成していても、長く活動していないため、住民が組織を市に登録していることを知らないケースも多く見られました。

※地区自治連合会に説明に回ります。

市では、昨年は約100件の未結成の自治会の会長宅を訪問し、自主防災組織を立ち上げていただくようお願いしましたが、その後の結成数は、20件余りとどまっています。

地域でも防災に取り組まねばならないのはわかってるんだけど、自主防災組織ってどうやってつくって、どんなことをすれば良いのだから

うか？というご質問をよくお受けします。

まずは、自治会の会議で防災の話題を取り上げていただけないでしょうか？日本各地で近年発生した災害を取り上げ、自分たちがこのような災害のとき、どうやって逃げるかを想像してもらい話題にしてください、同感、同情が得られたら、自主防災組織の結成についてご提案いただけませんか？

自主防災組織を結成すると決まったら、規約と役員を決めることが必要になります。規約例は市民安全課にございます。役員選任については、発足当初や規模の小さな自治会においては、自治会長や自治会役員が兼務しても構いません。

また、活動については、他市の例ですが、ある自主防災組織では、夜間に災害が起きたと想定して「観月会」という名目で夜に避難場所まで集まっていたいただき、夜食の提供というかたちで炊き出しを行い、お楽しみ会の中に訓練を組み込んでいるというお話を聞きました。肩肘張らない防災活動から始めていただくのも意識を高める方法かもしれません。

※補助金を活用してください。

市民安全課では自主防災組織の活動費用（訓練、備蓄品（食料等）資機材（消火器、ラジオ、ヘルメット等）の購入）の2分の1の補助金を交付する制度があります。初回のみ全額補助を受けられます。（いずれも世帯数で年度補助上限額有）組織結成や活性化のきっかけにぜひご利用ください。

※避難所担当職員を決めています

では災害時、自主防災組織にはどんな役割が求められるのでしょうか？

①地域住民を迅速に避難させることと避難状況の把握です。

※公民館、中学校に基本的な備蓄品を配備しました

②避難所における秩序の維持、避難所運営です。

この2つの基本的な役割の他、地域でできる活動を加えていただいたら良いと存じます。

大和郡山防災ニュースは、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース	検索
------------	----

↑

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください！

大和郡山市消防団へようこそ	検索
---------------	----

発行人 ⁷ 市役所市民安全課